

7月における水稲の病害虫の発生状況は以下のとおりです。

巡回調査(69地点)は、7月中旬(10~13日)、下旬(24~25日)に実施。

○ いもち病(葉いもち)

・7月中旬の調査では、発生は確認されませんでした。

・7月下旬の調査では、巡回調査 69 地点のうち2地点において、病斑が確認されましたが、発生量は少ない状況でした(図1, 図2)。

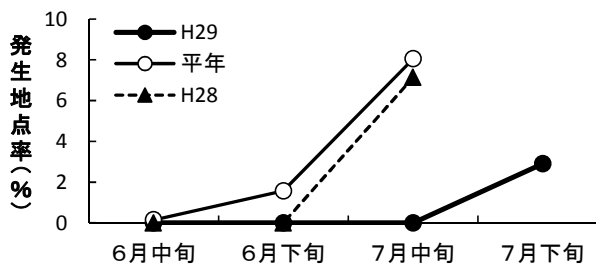


図1 葉いもちの発生地点率の推移

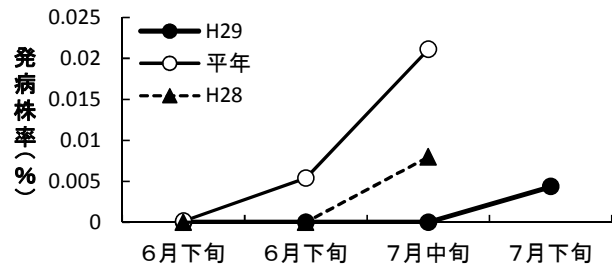


図2 葉いもちの発病株率の推移

※図1, 2ともに、調査株数:2,000株、平年:過去10か年平均
7月下旬は、例年、2,000株調査を行っていないため、H28値、平年値はない。

○ 紋枯病

・7月下旬の調査では、発生地点率は13.0%で平年(16.0%)並、発病株率は1.4%で平年(2.1%)並の状況でした(図3)。

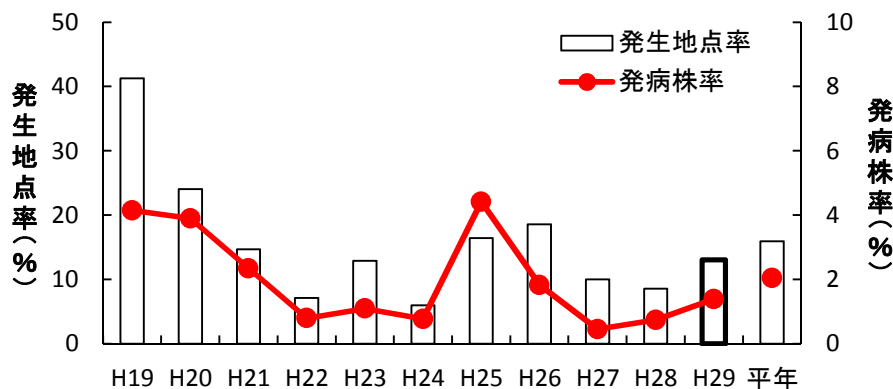


図3 7月下旬における紋枯病の発生状況

調査株数:25株 平年:過去10か年平均

・6月下旬以降、発生地点率、発病株率ともに平年並に推移していますが(図4, 図5)、病勢の進展は緩慢です(図6)。

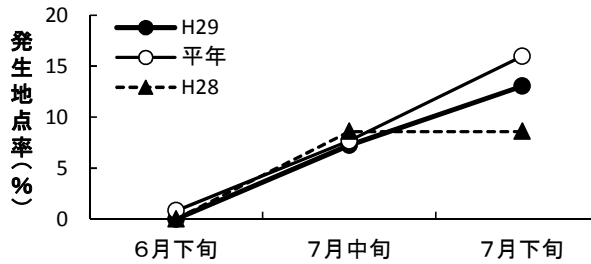


図4 紋枯病の発生地点率の推移
調査株数:25株 平年:過去10か年平均

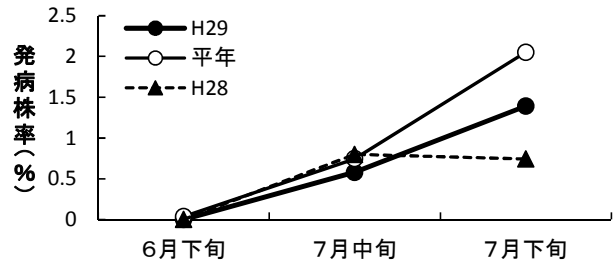


図5 紋枯病の発病株率の推移
調査株数:25株 平年:過去10か年平均

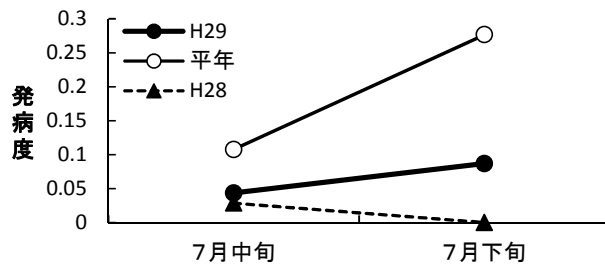


図6 紋枯病の発病度の推移
調査株数:25株 平年:過去10か年平均

○ 白葉枯病, 縞葉枯病, ごま葉枯病

・今回の調査では, 発生は確認されませんでした。

○ 斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ)

・7月下旬のすくいとり調査では, 水田周辺の畦畔, 牧草地及び雑草地では, 適期に草刈りが実施されているところが多く, アカスジカスミカメ成虫の発生地点率は 29.6%と平年(43.1%)よりやや低い状況でした。一方, すくいとり虫数については, 刈取りを実施していない牧草地の一部で発生量のかなり多い地点がみられ, 全体のすくいとり虫数は 91.7 頭と平年(34.1 頭)より多い状況でした(図7)。

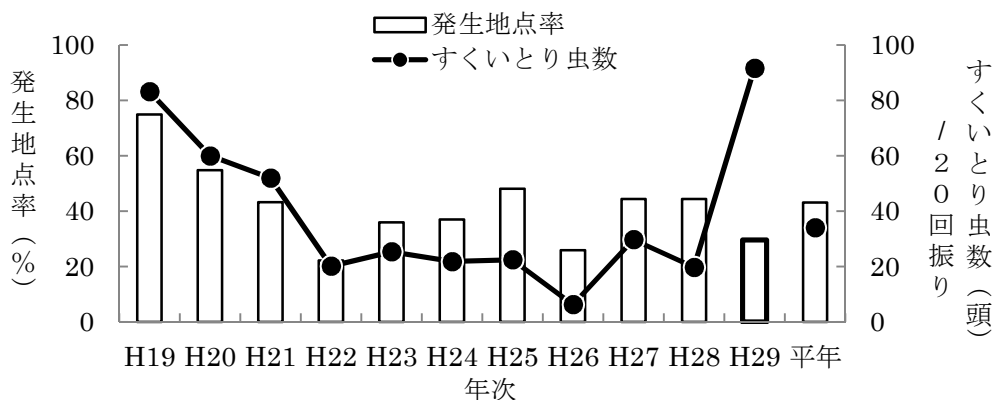


図7 畦畔, 牧草地及び雑草地におけるアカスジカスミカメ成虫の発生地点率とすくいとり虫数(7月下旬)

・出穂した本田のすくいとり調査(8月7日現在, 57 地点)の結果, アカスジカスミカメ成虫の発生地点率は 49.1%で平年(43.5%)よりやや高く, すくいとり虫数は平年と同程度でした(図8, 図9)。

・アカスジカスミカメを誘引し増殖源となるイヌホタルイが残草しているほ場では, 水田内のすくいとり虫数が多くみられました(図 10)。

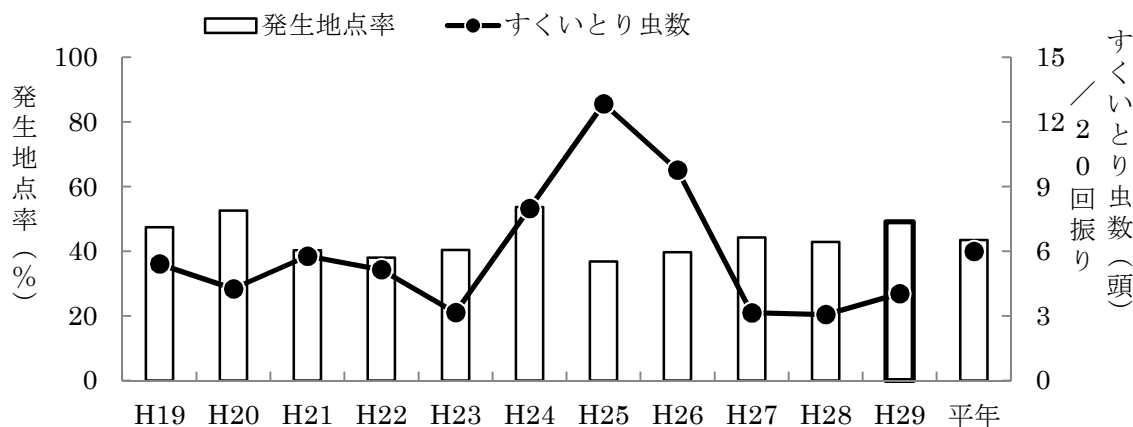


図8 水田内におけるアカスジカスミカメ成虫の発生地点率とすくいとり虫数(出穂期)

H29は8月7日現在, 全69地点中57地点のデータ

調査方法: 本田20回すくいとり調査, 平年: 過去10か年平均

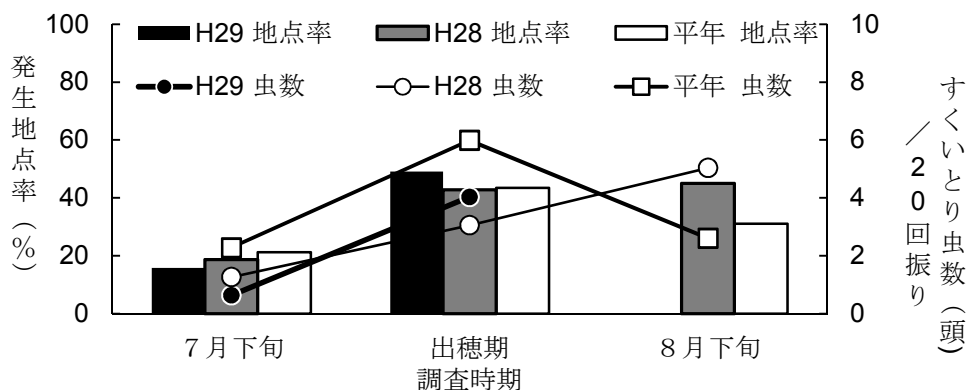


図9 水田内におけるアカスジカスミカメ成虫の発生地点率とすくいとり虫数の推移

出穂期のH29は8月7日現在, 全69地点中57地点のデータ

調査方法: 本田20回すくいとり調査, 平年: 過去10か年平均

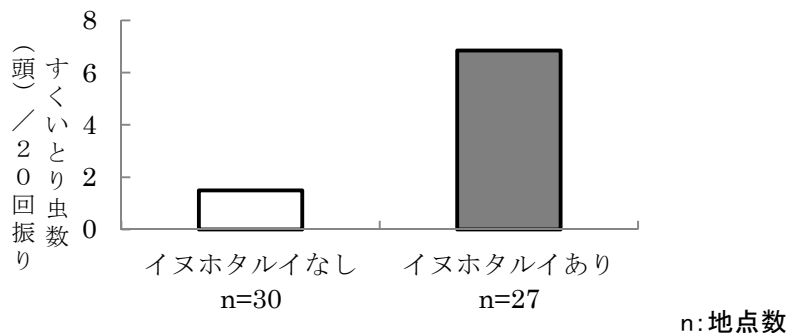


図10 水田内のイヌホタルイの有無(7月下旬)とアカスジカスミカメ成虫のすくいとり虫数(出穂期)